

総合戦略に係る指標の平成29年度末実績

【凡例】
 S 31年度目標を達成
 A 前年度より改善
 B 前年度から横ばい
 C 前年度より悪化

基本目標① 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

数値目標	H26実績 (策定時)	H29実績	H31目標	単位	進捗状況	評価	備考
合計特殊出生率	1.32	—	1.48			A	H29実績値は、平成30年10月頃にデータ集計により数値を把握する見込み。

施策	KPI	H26実績 (策定時)	H29実績	H31目標	単位	進捗状況	評価	総合戦略に位置付けた主な取組	29年度進捗状況の説明	目標達成の可能性、理由、課題、今後の対応 等	担当 部署
ア 支え合いによる子ども・子育て支援	全出生数に占める第2子出生数の割合	37	37	40%			C	第1子保育料無償化事業 第2子以降保育料無償化等事業 3歳未満児定員拡大推進事業 保育士人材確保推進事業 妊娠期からの相談支援事業（秋田市版ネウボラ） 子ども福祉医療費給付事業 不妊治療費助成事業 ワーク・ライフ・バランス推進事業 など	29年度は28年度に引き続き、第2子および第3子以降が出生した世帯の第2子保育料無償化事業を実施したが、昨年を下回る結果となった。	【目標達成の可能性】 低い 【理由】 出生数の減少に歯止めがかかっておらず、30年度から実施する第1子保育料無償化事業に伴い、第2子の割合が影響を受けるため。 【課題、今後の対応】 課題：出生数の減少に歯止めがかかっていない 対応：第1子保育料無償化事業および第2子以降保育料無償化等事業について、リーフレットの作成やSNSの活用等により、事業の周知に努める。	子ども未来部

施策	KPI	H26実績 (策定時)	H29実績	H31目標	単位	進捗状況	評価	総合戦略に位置付けた主な取組	29年度進捗状況の説明	目標達成の可能性、理由、課題、今後の対応 等	担当 部署
イ 子どもの安全安心の確保	放課後児童クラブ登録児童数	1,284	1,491	1,824人			A	放課後児童健全育成事業 放課後子ども教室推進事業 放課後児童クラブ施設整備費補助金	28年度より5クラブ増の41クラブに運営を委託し、登録人数は144人多い1,491人が登録した。	【目標達成の可能性】 高い 【理由】 全児童数は減少傾向にあるものの、留守家庭児童数および放課後児童クラブの登録人数は増加しているため。 【課題、今後の対応】 新制度の実施により待機児童の発生が見込まれるため、新規クラブ創設に向け、社会福祉法人などの関係団体に働きかけるほか、創設等の施設整備に係る支援体制の充実を図る。	子ども未来部

施策	KPI	H26実績 (策定時)	H29実績	H31目標	単位	進捗状況	評価	総合戦略に位置付けた主な取組	29年度進捗状況の説明	目標達成の可能性、理由、課題、今後の対応等	担当 部署
ウ 若い世代の希望の実現	あきた結婚支援センター登録会員における婚姻数(秋田市民)	64	61	94	人		C	ふたりの出会い応援事業(シングルズカフェ秋田)若者自立支援事業あきた結婚支援センター運営経費負担金	ふたりの出会い応援事業(シングルズカフェ秋田)を継続して開催し、445人の独身男女に対し、出会いの場を提供した。交際、結婚に繋げるよう、魅力アップや第一印象アップを図るセミナーも開催した。また新たに、シングルズカフェ秋田参加者を対象に、あきた結婚支援センターの会員登録料の補助事業を実施した。27年度に試行的に開催したシングルズカフェ秋田の参加者同士での成婚報告があった。	【目標達成の可能性】低い 【理由】あきた結婚支援センターでは、婚姻数の増加に向けて、マッチングシステムを見直したほか、会員数の増加については、出張センターの開催、市では会員登録料の半額を助成するなど様々な取組を実施しているが、婚姻数の減少に加え、会員登録者数も減少しているため。 【課題、今後の対応】あきた結婚支援センターの会員数も減少しており、周知不足が課題となっている。30年度は、当該センターの会員登録料補助の対象要件を緩和したほか、シングルズカフェ秋田の中で、当該センター職員からのPRの時間を設けるなど、ホームページや広報あきたなどへの掲載も継続しながら、さらなる周知を図っていく。	子ども未来部
エ 家族・地域の絆づくり	市が実施する絆づくり事業の認知度	44	56.3	57	%		A	家族・地域の絆づくり推進事業かぞくぶっくぱっく事業	絆の映画上映会やコンサート、市内小学校での絆の学習等の事業を実施するとともに、チラシ、ポスターのほか、広報紙、地元紙、ラジオなどの媒体を活用した広報活動によって意識啓発、理解促進を図ったことにより、認知度が56.3%に上昇した。	【目標達成の可能性】高い 【理由】絆づくり事業の実施、様々な媒体を活用して広報活動を行うことなどで毎年度、認知度が上昇傾向にあり、今後も継続して絆づくりの周知に努めることとしている。 【課題、今後の対応】総合戦略の指標である31年度の認知度57%に向けて、継続的に絆づくり意識の浸透を図る必要があり、引き続き効果的な取組内容やPR方法等を検討していく。	市民生活部
オ 男女共生社会の確立	市の審議会、委員会などへの女性参画率	34.1	32.3	50	%		C	男女共生推進事業女性活躍推進事業	審議会を所管する課所室に女性人材リストを提供し、女性委員登用の協力依頼を進めた。平成29年度の審議会委員の委嘱状況は、124審議会、2,176人のうち女性委員が702人であり、女性参画率を50%にするためには、女性委員を1,088人に引き上げる必要がある。(Δ386人)	【目標達成の可能性】無し 【理由】女性参画率を50%に近づけることを目標としているが、多くの審議会において、委員委嘱先の関係機関や団体の役職者に女性がいなく、専門分野に女性の学識経験者が少ない等の理由により、女性委員の登用が困難な状況にあり、約3割程度で頭打ちの傾向が続いている。 【今後の対応】 ・改選期を迎える審議会を所管する課所室に対し、引き続き女性委員の登用を強く働きかける。特に29年度全体実績(32.3%)に満たない審議会について、委嘱先の関係機関への依頼等、具体の検討を促し、参画率の底上げを図る。 ・男女共生・女性活躍推進をテーマとするシンポジウム、職員研修等を引き続き実施し、庁内外での意識啓発、理解促進を図る。	市民生活部

基本目標② 安定した雇用を創出する

数値目標	H26実績 (策定時)	H29実績	H31目標	単位	進捗状況	評価	備考
市の施策による雇用創出数	0	1,645	3,150	人	<p>H26～H29は実績値</p>	A	H29末実績1,645人の内訳は下記①～⑥の合計 ① 創業支援補助金における新規雇用者数 50人 ② 商工条例助成金交付実績に基づく新規雇用者 47人 ③ シルバー人材センター新規入会者数 131人 ④ アンダー35正社員化促進事業 328人 ⑤ 農業法人等への雇用就農(新規就農者) 14人 ⑥ H28末実績 1,075人

施策	KPI	H26実績 (策定時)	H29実績	H31目標	単位	進捗状況	評価	総合戦略に位置付けた主な取組	29年度進捗状況の説明	目標達成の可能性、理由、課題、今後の対応等	担当部局
ア 正規雇用拡大等による雇用の質の向上	アンダー35正社員化促進事業における正規雇用転換者数	0	580 (H28～H29年度)	1,200	人 (H28～30年度)	<p>H26～H29は実績値</p>	A	アンダー40正社員化促進事業 なでしこ秋田・働く助成 応援事業 奨学金返還助成事業 若年者就業支援事業 高齢者就業機会確保事業 資格取得助成事業	広報活動や企業訪問等による事業PRを積極的に行い、制度の活用を働きかけた結果、28年度を上回る328人の正規雇用転換が図られた。	【目標達成の可能性】 低い 【理由】 多くの企業で正規転換の動きは広がっているものの、事業開始後2年間の実績を踏まえると、目標達成は厳しい状況にあるため 【課題、今後の対応】 今後も、人手不足が課題となっている業種のほか、これまで利用実績の少ない生保・損保などの金融関係をもターゲットにしながら、さらなるPR活動を行っていく。	産業振興部

施策	KPI	H26実績 (策定時)	H29実績	H31目標	単位	進捗状況	評価	総合戦略に位置付けた主な取組	29年度進捗状況の説明	目標達成の可能性、理由、課題、今後の対応等	担当部局
イ ビジネスチャンスをとらえた産業の創出	開業率(新規設立法人数/法人数)	3.9	4.2 (H28～H29年度 平均値)	4.5	% (28～31年度 平均値)	<p>H26～H29は実績値</p>	A	商店街空き店舗対策事業 秋田市農業ブランド確立事業 商工業振興奨励措置事業 中小企業金融対策事業 創業支援事業 6次産業化起業・事業拡大支援事業 農商工連携ビジネス支援事業 など	29年度は、18人に対して創業支援補助金を交付したほか、28人に対して創業資金の融資あっせんを行った。また、創業支援セミナーを1回開催し、39人が参加した。	【目標達成の可能性】 高い 【理由】 開業率は社会変動に影響されるものの、現在は増加基調にあり、今後も順調に増加すると見込まれるため 【課題、今後の対応】 本市創業支援事業計画に基づく29年度の創業実績は、28年度の67件から増加し、128件であった。また、創業支援補助金の交付人数についても、前年度の11人を上回る18人となった。 開業率は年度毎に変動するものの、32年度にかけて向上させていくため、市内の創業支援事業者と連携しながら、継続して起業塾や創業支援セミナー等による創業意欲の醸成を図るとともに、補助制度や融資制度、創業支援室の利用促進を図っていく。	産業振興部

施策	KPI	H26実績 (策定時)	H29実績	H31目標	単位	進捗状況	評価	総合戦略に位置付けた主な取組	29年度進捗状況の説明	目標達成の可能性、理由、課題、今後の対応 等	担当 部局
ウ 力強い 農業経済 活動の創 出	認定農業 者および集 落営農組 織経営体 数	499	620	640	経営体		A	担い手育成・確保事業 新規就農支援事業 一歩先行く農業法人フ ローアップ事業 園芸振興センター管理運 営経費 ネットワーク型園芸拠点 育成事業 園芸作物生産振興事業 園芸作物担い手育成事業 園芸作物販売促進支援事 業	認定農業者が条件の農業施策に より、新規に12経営体が認定され た。	【目標達成の可能性】 低い 【理由】 ほ場整備等によって法人化が促進さ れ、認定農業者が法人の構成員になる 等の理由で経営体数が減となる場合が あるため 【課題、今後の対応】 本市の農業が持続的に発展していく ためには、若い世代の担い手の育成・ 確保が重要であるため、認定農業者の 経営改善支援、担い手の掘り起こし活 動により、次世代を担う人材の育成支 援に努める。	産業 振興 部
エ 環境関 連産業の 育成・創出	環境関連 産業部門 への進出 件数	1	3	2	件		S	地域E S C O事業（あき たスマートシティ省エネ 事業） 未来の暮らし創造事業 （あきたスマートシ ティ・ライフスタイル変 革事業）	風力発電設備のメンテナンス工 場等の進出を働きかけた。	【課題、今後の対応】 今後とも誘致の働きかけを行ってい く。	環境 部

基本目標③ 秋田市への新しいひとの流れをつくる

数値目標	H26実績 (策定時)	H29実績	H31目標	単位	進捗状況	評価	備考
市外への転出超過の改善(転入者－転出者)	△ 342	△ 780	△ 171	人		C	<ul style="list-style-type: none"> ・転入者数 8,998人 ・転出者数 9,778人

施策	KPI	H26実績 (策定時)	H29実績	H31目標	単位	進捗状況	評価	総合戦略に位置付けた主な取組	29年度進捗状況の説明	目標達成の可能性、理由、課題、今後の対応 等	担当 部局
ア 移住の促進	本市への移住者数	4	135	67	人		S	移住促進事業 地域おこし協力隊活用事業 空き家定住推進事業 多世帯同居・近居推進事業	移住相談センターに専門相談員を配置するとともに、子育て世代をターゲットとした「子育て世帯移住促進事業」を新たに実施した。また同センターおよび企画調整課に「移住・定住無料職業紹介所」を設置するなど、移住相談体制を強化した結果、実績値の向上に結びつき、目標値を上回った。 また、部局横断的な組織体制をさらに強化するため、「秋田市移住・定住庁内連絡協議会」を新たに設置し、移住・定住を促進するにあたっての課題を検討するとともに、全庁的なサポート体制を構築した。	【課題、今後の対応】 「秋田市移住・定住庁内連絡協議会」での協議を踏まえ、移住・定住を促進するうえでの課題に対し機動的な対応を実現するとともに、実効性のある施策を切れ目なく展開することで、31年度目標値にとらわれることなく、前年度を上回る移住者数を目指し、引き続き取り組んでいく。	企画 財政部

施策	KPI	H26実績 (策定時)	H29実績	H31目標	単位	進捗状況	評価	総合戦略に位置付けた主な取組	29年度進捗状況の説明	目標達成の可能性、理由、課題、今後の対応等	担当 部局
イ 観光振興とセールス・プロモーションの強化	助成対象コンベンション参加人数	25,355	19,556	36,392	人	<p>H26~H29は実績値</p>	A	<p>秋田市観光振興協働交付金 ギョギョっとあきた週末イベントリレー開催経費 土崎港曳山行事ユネスコ無形文化遺産登録記念事業 ユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」魅力発信事業 秋田犬ふれあい事業 ホストタウン交流事業 観光プロモーション事業 秋田港大型クルーズ船誘致等事業 インバウンド誘客促進事業 北前船日本遺産推進事業など</p>	<p>秋田市観光振興協働交付金を公益財団法人秋田観光コンベンション協会に交付した。 同協会では、本市にコンベンションを誘致するため、首都圏の本部事務局等への訪問やコンベンション開催支援助成金制度などのPRを行うとともに、地元学協会事務局や開催地選定キーパーソンなどへ積極的なセールスを行った。 ※助成対象コンベンション開催数は平成26年度の37回から29年度は44回と増加したが、1千人以上が参加した大型コンベンションが26年度の9回（うち、2千人規模が7回）から29年度は3回に減少したことから、実績値（参加人数）が減少した。28年度比では約8千人の増となっている。</p>	<p>【目標達成の可能性】 無し 【課題】 コンベンション誘致を成功するためには、地元関係者やキーパーソンの開催意思表示が大きな要素となることから、丁寧かつきめ細かなPR活動が必要となる。 30年6月から約4年間約2千人規模のコンベンションの開催が可能である秋田県民会館が、工事のため使用できなくなる。 【今後の対応】 コンベンション開催本部事務局から情報収集し、地元関係者やキーパーソンに積極的なセールスを行う。 さらに、誘致情報や折衝記録など一元化したデータベースを活用しながら、開催する可能性が大きい本部事務局等を定期的に訪問し、コンベンション開催支援助成金制度やコンベンション応援団の派遣、観光情報など秋田の魅力を売り込むほか、主催者のニーズに応えられるよう、コンベンション施設の事前予約や宿泊など旅行会社との調整を図るなどしながら、コンベンション誘致に努める。 また、30年度から、コンベンションの支援（ボランティアや観光レディーの派遣、歓迎ポスターの制作等）対象団体を拡大したほか、支援メニューにシャトルバスの運行等に対する助成を新設した。</p>	観光文化スポーツ部
ウ 芸術・文化によるまちおこし	文化施設の観覧者数	181,971	218,870	189,000	人	<p>H26~H29は実績値</p>	S	<p>県・市連携文化施設整備事業 旧県立美術館活用事業 （仮称）あきた芸術祭検討経費</p>	<p>各施設において企画展、各種講座、ワークショップ等を実施するとともに、文化施設間の連携に努めた。</p>	<p>【課題、今後の対応】 地域団体や文化団体、教育機関等との連携に努めるとともに、広く市内外に情報発信していく。</p>	観光文化スポーツ部
エ トップスポーツへの支援	ホームスタジアム（アリーナ）での平均観客動員数	2,580	2,897	5,000	人(N/H)	<p>H26~H28は実績値</p>	C	<p>スポーツホームタウン推進事業 （仮称）新スタジアム整備構想策定協議会負担金</p>	<p>Bリーグの開幕やブラウブリッツ秋田が過去最高の成績を残すなど、各クラブを取り巻く環境が劇的に変化している状況を、今後の各クラブの経営を左右する正念場と捉え、スポンサー補助を増額支給した。 また、市民の各クラブに対する応援機運や愛着を高めるとともに、交流人口の拡大による地域の活性化につなげるため、中心市街地等に大型バナーや幟旗の掲出を行い、ホームゲームをPRした。</p>	<p>【目標達成の見込み】 低い 【理由】 各クラブの活躍はもちろんのこと、小中高生との交流活動や除雪等の地域貢献活動を通じ、ファンのすそ野は拡大しているものの、観客動員には直結していない。 【課題、今後の対応】 各クラブが地元根付き、自立していくため、工夫を凝らしたイベントを展開するなどして観客数・広告収入の増を図り、行政に頼らない経営基盤を確立させる必要がある。 また、チームの成績が観客数に直結するため、チーム成績の安定も求められる。</p>	観光文化スポーツ部

※3クラブ中2クラブが前年度より悪化のため、C評価とした。

基本目標④ 高齢者が健康でいきいきと暮らせるまちづくりを進める

数値目標	H26実績 (策定時)	H29実績	H31目標	単位	進捗状況	評価	備考				
要介護認定を受けていない高齢者(第1号被保険者)の割合	84.4	85.1	85.0	%		S	$100 - B/A \times 100$ A 第1号被保険者数 92,366人 B 要介護認定者数 13,785人 ※H29.9.30現在				
施策	KPI	H26実績 (策定時)	H29実績	H31目標	単位	進捗状況	評価	総合戦略に位置付けた主な取組	29年度進捗状況の説明	目標達成の可能性、理由、課題、今後の対応 等	担当 部署
ア 生涯を通じた健康づくりと生きがいの推進	がんの75歳未満の年齢調整死亡率(人口10万対)	87.3	85.8 (H28実績) ※H29実績値は、平成31年2月頃にデータ集計により数値を把握する見込み	80.3	(30年度)		A	がん検診等事業 健康づくり推進事業 歩くべあきた健康づくり事業 歩くべあきた高齢者健康づくり事業	がんや生活習慣病予防のための健康教育に努めるとともに、がん検診の受診率向上のため、平成28年度から導入した市独自の自己負担金割引制度やレディース健診等を実施し、検診の受けやすさに配慮した。	【目標達成の可能性】 低い 【理由】 がん死亡率は、長期的に見た場合、減少傾向にあるものの、これまでの減少割合で推移すると、目標年度での達成は厳しいと考えられるため。 【課題、今後の対応】 「歩くべあきた健康づくり事業」では、引き続き周知の強化に努め、参加者の増加を図るとともに、より効果的な運動習慣の定着化のため、歩数の増加だけでなく、運動強度を取り入れた内容を実施していく。 がん検診等の受診率が低いことから、受診率向上の取組として、28年度から導入した市独自の自己負担金割引制度を継続実施し、継続的な受診につなげていく。また、引き続き、レディース健診の実施や、胃がん検診会場で大腸がん検診を同時実施するなど、市民の受診の利便性を図っていく。	保健所
イ 高齢者の多様な能力の活用	日常的にボランティア活動を行っている高齢者数	826	1,155	1,248	人		A	介護支援ボランティア制度運営経費 傾聴ボランティア養成事業 高齢者コミュニティ活動創出・支援事業 エイジフレンドリーシティ推進事業 エイジフレンドリーシティ普及啓発事業	関係団体との連携により各種ボランティア活動を支援したほか、受け入れ機関の拡充を図るなど、ボランティア活動を促進した結果、実績値の向上に結びついた。	【目標達成の可能性】 高い 【理由】 受け入れ機関の拡充を図るなど、ボランティア活動の促進に努めたため。 【課題、今後の対応】 引き続き関係団体と連携し、受け入れ機関の拡充を図るなど、ボランティア活動を促進する。	福祉保健部

施策	KPI	H26実績 (策定時)	H29実績	H31目標	単位	進捗状況	評価	総合戦略に位置付けた主な取組	29年度進捗状況の説明	目標達成の可能性、理由、課題、今後の対応等	担当 部局
ウ バリアフリー化の推進	都市公園のバリアフリー化率	57	64.6	66	%	<p>H26～H29は実績値</p>	A	エイジフレンドリーパートナーづくり推進事業 都市公園バリアフリー化事業	保戸野桜町街区公園ほか5公園をバリアフリー化した。	【目標達成の可能性】 高い 【理由】 平成30年度に市場西第二街区公園ほか5公園のバリアフリー化を実施する予定であり、平成30年度末で目標達成できる見込みである。 【課題、今後の対応】 現在活用している国の補助事業は、平成30年度までの時限措置であり、計画的な公園の再整備を行うためには、継続的に財源を確保する必要がある。	建設部
エ 高齢者の移動手段の確保	高齢者コインバス資格証明書交付者数	39,230	55,839	48,000	人	<p>H26～H29は実績値</p>	S	高齢者コインバス事業 バス交通総合改善事業	平成29年10月から対象年齢を満65歳以上に引き下げ、資格証明書のサイズの小型化を行った。	【課題、今後の対応】 引き続きホームページや広報あきたにより、コインバス事業の利用促進を図る。	福祉保健部
オ 多様な生活支援サービスが利用できる地域づくりの推進	認知症サポーター数	9,539	19,595	26,000	人	<p>H26～H29は実績値</p>	A	地域包括支援センター運営事業 高齢者生活支援体制整備事業 高齢者生活支援情報提供事業 認知症対策推進事業	ホームページや広報あきたにより広く周知活動を行ったほか、秋田市内の小中学校の校長会で事業のPRを行ったことで児童のサポーターの増加につながった。	【目標達成の可能性】 高い 【理由】 町内会や企業などでの認知症サポーター養成講座の開催数が増加しているほか、児童生徒のサポーター数が増加しているため。 【課題、今後の対応】 引き続きホームページや広報あきたにより周知活動を行うほか、町内会や認知症高齢者と関わる機会の多い企業に加え、小中学校、高校など若年層に対しても開催を働きかける。	福祉保健部

基本目標⑤ 持続可能な地域をつくり、安全安心な暮らしを守る

数値目標	H26実績 (策定時)	H29実績	H31目標	単位	進捗状況	評価	備考
本市に住み続けたい人の割合	74.9		80.0	%			数値目標を把握するための市民意識調査は5年毎の実施のため、次回の実施は31年度となる。

*しあわせづくり市民意識調査による（「事情が許せば、住み続けたい」を含む）

施策	KPI	H26実績 (策定時)	H29実績	H31目標	単位	進捗状況	評価	総合戦略に位置付けた主な取組	29年度進捗状況の説明	目標達成の可能性、理由、課題、今後の対応等	担当部局
ア 秩序ある都市環境の形成	第2期秋田市中心市街地活性化基本計画の策定	未策定	策定済み	策定			S	中心市街地活性化基本計画推進経費 中心市街地優良建築物等整備事業費補助金 住宅リフォーム支援事業	平成28年度に策定した第2期秋田市中心市街地活性化基本計画の変更について、平成30年3月23日付けで内閣総理大臣の認定を受けた。	【課題、今後の対応】 掲載事業の確実な実施を目指して進捗管理を行うとともに、毎年フォローアップを実施する。	都市整備部

イ 公共施設の全体最適化	公共施設等総合管理計画の策定	未策定	策定済み	策定			S	公共施設等マネジメント推進経費	29年3月に秋田市公共施設等総合管理計画を策定し、目標を28年度で達成した。	【課題、今後の対応】 公共施設等総合管理計画に基づき、個別施設計画の策定に向け取り組む。	総務部
--------------	----------------	-----	------	----	--	--	---	-----------------	--	---	-----

ウ 交通機能の充実	年間バス利用者数	7,867,395	7,365,874	7,868,000	人		C	泉・外旭川新駅（仮称）整備事業 地方バス路線維持対策経費	広報あきたを活用し、積極的なバス利用について呼びかけを行ったほか、マイタウン・バス西部線および南部線の沿線地域住民にPRチラシを配布し利用促進を図ったが、年間バス利用者数は28年度末よりも減少した。	【目標達成の可能性】 無し 【理由】 人口減少やモータリゼーションの進展などにより、路線バス、マイタウン・バスともに利用者は年々減少しており、今後も、劇的な改善に資する要素は見込めないため。 【課題、今後の対応】 鉄道とバスの連携による公共交通ネットワークの強化を目指すとともに、交通系ICカードの導入など利便性向上策について、バス事業者と共に検討していく。	都市整備部
-----------	----------	-----------	-----------	-----------	---	--	---	---------------------------------	---	--	-------

施策	KPI	H26実績 (策定時)	H29実績	H31目標	単位	進捗状況	評価	総合戦略に位置付けた主な取組	29年度進捗状況の説明	目標達成の可能性、理由、課題、今後の対応 等	担当 部局
エ 安全な生活の実現	自主防災組織などによる防災訓練参加者数	6,013	7,116	6,703	人	<p>H26～H29は実績値</p>	S	老朽危険空き家等対策経費 自主防災組織育成事業	平成28年4月の熊本地震、同8月の台風10号による岩手県岩泉町での大規模な水害などを受け、平成29年度の事業として避難訓練や防災訓練に取り組んだ自主防災組織や町内会が多かったと思われる。	【課題、今後の対応】 引き続き、避難訓練等への取り組みの働きかけを継続する。	総務部
オ 市民の主体的な活動の推進	市民活動団体による市民交流サロン内の活動件数	656	637	693	件	<p>H26～H29は実績値</p>	A	地域まちづくり推進事業 市民協働・市民活動支援事業 地域支援事業	市民活動団体の打合せの場として利用してもらうよう広く周知を図っているが、目標達成するほどの活動件数の増加にはつながっていない。	【目標達成の可能性】 低い 【理由】 平成28年度で7つの市民サービスセンターすべてが揃い、より身近な場所で活動を行うことができるため利用者が分散されてきていること、および自身の活動拠点を設けるなど組織自体が自立してきていることも考えられるため。 【今後の対応】 市民交流サロンの一層の周知を図るとともに、他の貸し館とは違い、市民活動に関する相談を受けられる場所としての付加価値をつけられるようアドバイザーの能力向上と利便性を生かした取組を図ることに努める。	市民生活部
カ 新(省)エネルギー設備の導入拡大	住宅用太陽光発電システム設置延べ件数	1,334	1,677	2,234	件	<p>H26～H29は実績値</p>	A	再生可能エネルギー導入支援事業 メガソーラー事業	平成29年度は、122件664.36kWの補助を行った。	【目標達成の可能性】 無し 【理由】 目標を達成するためには設置件数の増加が必要であるが、現状は、国・県の補助制度が終了したことに加え、電力買取価格が下がったことから、設置のメリットが減少している。 【課題、今後の対応】 今後も、補助制度の周知を一層図るなどして、導入の促進を行っていく。	環境部